

・事例 右図の様に不燃物入りドラム缶の中身を分別確認のため、チタンパイプ（20mm～30mm）でほぐしたとき、瞬時に発火した。

・原因 中身は溶解工場で発生した、スラッジ、チタン粉、手入れ時の塩マグ等で乾燥していた。  
廃却処分で送る前にチタンの大きな物を除去した。  
中身をパイプでほぐした。  
安全作業マニュアル無し。

真の原因不明

・対策 必ず投入物以上に注水する。  
ドラム缶 1 本単位で処理する。  
ドラム缶上に10mm 程度の網を置き、その網で分別する。  
マニュアルを作成し全員に教育する。

なお、消火の際には水を掛けたり、炭酸ガス系消火剤はいけません。もし使うと火勢を強めます。消火用に乾燥した砂かチタン用消火剤を使用することが大切です。

